

【研究ノート】

『共産党宣言』初版について

——23ページ本の組成・異本の指標・活版印刷とは？——¹

橋本直樹

目次

- I 『共産党宣言』は23ページ本が初版
- II 「23ページ本」の各異本
 - 1. 23ページ本である証拠 各異本の共通性
 - (1) 23ページ本の組成——表紙と二つの折りで構成される23ページ本——
 - 1) 表紙
 - 2) 二つの折りで構成される本文用紙
 - 3) 仮綴じの仕方
 - (2) 23ページ本の組版で印刷された版本である証拠 各異本に共通する印刷上の汚れ
 - 2. 23ページ本の各異本の特徴 各異本の相違点
 - (1) 表紙
 - (2) 扉（タイトルページ）
 - (3) 目立った4つの誤植
 - 1) 悪活字の herauf beschwor か きれいな活字だが誤植の heraus beschwor か
 - 2) 17ページのノンブルを23と誤植
 - 3) 18ページ33行目改行行頭に■（込め物 [全角クワタ]）の汚れ
 - 4) 23ページ44行目の誤植 Lander
 - 3. 23ページ本の異本の種類と印刷順序
(補足) 活版印刷とは？
 - 1. 活字とは？
 - 2. 欧文活字のライン構成
 - 3. 活版印刷
 - 1) 活字セット全体 / 2) 活字セット常用部 / 3) 活字箱 / 4) 活字組み・組版・版掛 / 5) 組んで版盤に載せる（これはハガキの大きさの場合） / 6) 紙型と鉛盤 / 7) 鉛盤を印刷機にセットしたところ / 8) 印刷 / 9) 絵の部分の印刷（用紙が小さい印刷で） / 10) 絵を印刷した後、字の印刷 / 11) 刷り上がったハガキ / 12) 裁断機 / 13) 『新ライン新聞』発行当時（1848～49年）の印刷機のレプリカ

¹ 本稿は、2018年9月6日（木曜日）、慶應義塾大学三田キャンパス 大学院棟1階313教室で開催されたマルクス生誕200周年記念コンファレンス「マルクス—過去と現在」での拙報告「慶應図書館所蔵の『共産党宣言』初版について——23ページ本の組成・異本の指標・慶應義塾蔵本の特徴——」から、「慶應義塾蔵本の特徴」に直接関係しております。コンファレンス報告予稿ではⅢ、Ⅳ、おわりにであった3つの部分（『三田学会雑誌』に報告要旨として節番号は変わりますが、掲載予定）を削除して、若干の補注を加え、「研究ノート」の体裁をとって掲載するものです。稿中、「報告」等の語があり、またデスマス体なのはそのためです。この点、ご海容くださいますと幸甚です。なお、コンファレンスのコーディネーターである大西広 慶應義塾大学教授、司会をくださった坂本達哉慶應義塾大学教授、経済学部長 池田幸弘慶應義塾大学教授をはじめ、図書館貴重書担当の方々等、関係各位および慶應義塾経済学会には大変お世話になりました。記して謝意を表する次第です。

I 『共産党宣言』は「23ページ本」が初版

まず、『共産党宣言』の初版全般についてです。

これまで『宣言』の初版とされることのありました版本は3つございました。通常、それぞれ、「23ページ本」、「30ページ本」、「ヒルシュフェルト版」と呼ばれております²。

それぞれの表紙ないしは扉を掲げますと、下の画像1～画像3の通りです³。



(画像1) 23ページ本



(画像2) 30ページ本



(画像3) ヒルシュフェルト版(扉)

これら3点のうち「23ページ本」が『共産党宣言』の初版であることは現在、通説というよりも、もう定説になったとみてよろしいでしょう⁴。

² 拙著を取りまとめる際にはよく知られていることかと判断いたしまして、拙著『『共産党宣言』普及史序説』（八潮社、2016年）23ページでは典拠を挙げませんでした。が、エルンスト・ドラーンについては、例えば、Drahn, Ernst: *Marx-Bibliographie. Ein Lebensbild Karl Marx' in biographisch-bibliographischen Daten. Erstes Heft: Karl Marx' Leben und Schriften*, Zweite, verbesserte und erweiterte Aufl., Berlin 1923, S. 16をご覧くださいとよいでしょう。その1848年の項に、*Manifest der Kommunistischen Partei*, Veröffentlicht im Februar 1848. (24 Seiten.) Druck von R. Hirschfeld, London 1848. 80. (Verfasser Friedrich Engels und Karl Marx.) とだけ、『宣言』については記載されております（下線は橋本）。

³ 画像・図版等の出典は、あらかじめここで一括して掲げておきます。以下のとおりです。

画像1・画像4：Nachdruck, Karl-Marx-Haus Trier 1998. 画像2：Nachdruck, Karl-Marx-Haus Trier 1998. 画像3：連邦文書館内ドイツ民主共和国諸党および大衆諸組織文書館（SAPMO）。画像5：Meiser, 1991, S. 120. 画像6・画像9：Reprint, Verlag Neue Gesellschaft, Bonn-Bad Godesberg 1970. 画像7：Nachdruck, Hannover 1966. 画像8・画像11～14：Nachdruck, Dietz Verlag, Berlin 1965. 画像10：Propyläen Weltgeschichte, Bd. 7, Berlin 1929, Tafel 27, zwischen S. 400/401.

⁴ これら3つの版の紹介ならびにそれらのうちでどれが初版なのかの論証等、詳しい説明は、上掲拙著「第1章『共産党宣言』初版の確定」をご覧ください。例えば、ヒルシュフェルト版を所蔵しております法政大学大原社会問題研究所の当版本の紹介サイトにおきましてもそれが初版でない旨、記されております（例えば、「所蔵図書・資料の紹介」<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/own/tosho-3a.html>における、II 図書3 社会運動関係図書（1）マルクス・エンゲルス関係図書での紹介文）。

Ⅱ 「23ページ本」の各異本

この初版本である「23ページ本」にもいろいろな印刷異本（Druckvariante）がございます。以下では、煩瑣ですので、もっぱら異本とだけ申します。また、現物はもはや残されておりませんが、かつて撮影された写真等の複製だけが残っているもの⁵もございます。が、それらは別にいたしまして、版本が実際に今に伝承されているものだけで見ますと7～8種類ございます。次ページに拙著から「23ページ本印刷異本対照表（その2）」を挙げておりますので、ご覧ください⁶。初版の中の、一応刷りの違いであるとして考えますと⁷、残存している版本のうち最も早く刷られたと推察される異本、いわば初刷から、残存している版本のうちで最も遅く刷られたと推察される異本まで、ということです。

1. 23ページ本である証拠 各異本の共通性

（1）23ページ本の組成——表紙と二つの折りで構成される23ページ本——

初版である23ページ本はどのようにつくられているのかを確認いたします。

一般に23ページ本と言っておりますが、実際には23ページの裏面に空白の第24ページ目のある、全24ページからなる仮綴じ本（Broschüre）です。

23ページ本はそもそもはいわゆる仮綴じ本として出版されました。今もフランス装という言葉を目にすることがございますが、19世紀頃までは特段愛書家というわけでなくとも、購入者（所蔵者）が自分のお気に入りの装丁にして、製本するのが普通だったようです。我が国におきましても、30～40年前頃までは多くの図書館で雑誌を所蔵する場合、何冊かを製本したのと似ております。ましてや、23ページ本は薄手の小冊子ですから、仮綴じで出版されることになるわけです。

各異本の類別の基準として、表紙は比較的大きな要素でございますので、本稿の以下では表紙についてもほぼ拙著をそのままに記しております。

表紙がそのまま残されており、原型を留めている刊本を実見しますと、23ページ本が三つの構成部分からなることが分かります。

1) 表紙

第一の部分は表紙です。本文の用紙よりも幾分厚手で少し荒い手触りの、表裏とも緑色の用紙です。

⁵ こうした現在にまで原版本が伝承されておらず、その種々の複製のみが知られております23ページ本のうち、アンドレアスが「1D」と、またクチンスキーが「刷X（Druck X）」と名付けた注目すべき異本について、検討を加えましたものが、上掲拙著「第3章『共産党宣言』23ページ本の表紙・各ページの複製について」です。ご関心の向きはご覧いただけますと幸甚です。

⁶ 上掲拙著「第2章『共産党宣言』初刷の確定」、70/71ページから。

⁷ 初版といい、初刷といい、版や刷という言葉の中味はなかなか面倒なのですが、ここでは数十年ほど前まで我が国でもまだ一般的でありました活版印刷において通常使用されていた用法を踏襲しております。上掲拙著第2章、脚注3、45/46ページ、また、本稿末の「（補足）活版印刷とは？」をご覧ください。

23ページ印刷異本対照表 (その2) 拙著『共産党宣言』普及史序説 (八朔社、2016年) 第2章『共産党宣言』印刷の確定、70/71ページから										
印刷異本	異本1	異本2	異本3	異本4	異本5	異本6-1	異本6-2	異本7	類型数	部 分
依拠資料	Amsterdam-Uni.	Bayerische Staatsbibliothek	IISG Ex.1	IISG Ex.2	SAPMO	Andreas (Reprint)	PTACIII(RC); GA+ME(F)	Neue Gesellschaft (Reprint)		
罫り枠線の角数	1	1	伝承無し	1	1	3	3	3	2	5~6
左下隅端点	無し	無し	#	無し	有り	無し	無し	無し	2	
罫線り数	16	16	#	16	16	13	13	13	2	
垂直	29	29	#	29	30	26	26	26	3	
白点の場所	水平下左から4	水平下左から4	#	水平下左から4	水平上左から3	無し	水平下左から1	水平下左から1	4	
双柱ケイ	30mm~60.5mm	30mm~80.5mm	#	30mm~80mm	33mm~59mm	31mm~80mm	30mm~80mm	31mm~81mm	3	
紙	30.5mm	30.5mm	#	30mm	26mm	29mm	30mm	30mm		
表ケイ	29mm~62mm	29mm~62mm	#	32mm~62.5mm	29mm~59mm	28.5mm~60mm	29mm~60mm	28.5mm~60mm	3	
長さ	33mm	33mm	#	30.5mm	30mm	31.5mm	32mm	31.5mm		
第 1	38mm~66mm	36mm~66mm	38mm~66mm	36mm~66mm	38mm~66mm	36mm~66mm	38mm~66mm	無し	2	3
長さ	30mm	30mm	30mm	30mm	30mm	30mm	30mm			
折	33mm~64.5mm	33mm~64.5mm	33.5mm~65mm	33mm~65mm	33mm~64mm	32.5mm~63mm	33.5mm~65mm	無し	2	
長さ	31.5mm	31.5mm	31.5mm	32mm	31mm	30.5mm	31.5mm			
本 S. 6, Z. 53 heraus	無し、但し損傷	無し、但し損傷	無し、但し損傷	有り	有り	有り	有り	有り	2	
文 S.17→S.23	有り	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	2	3
S.18, Z.33	無し	有り	無し	無し	無し	無し	無し	無し	2	
折	有り	有り	有り	有り	有り	有り	有り	有り	1	
S.23, 双柱ケイ			右に1mm長						1~2	
伝承刊本26(a+b+c=7)	3	1	1+(2)	2+(a)	4+(b)		4+(c)	2	7種	

1) 罫掛け部は各印刷異本に特徴的な識別の指標を示す。
 2) 異本6-1のフアケシミリを考慮し、表紙全体の類型数を5~6、表紙の白点の場所の類型数を3~4としてある。
 3) S. 23, Z. 44, Lander を出してあるのは、今後のAndreas 1D, Kuczynski, Druck Iの検討を考慮したため。
 4) S. 23の双柱ケイは異本Sを差別化し得るか否かで、類型数が変わるため1~2としてある。

表紙はいわゆる第1表紙ページ（表表紙）に表題刊年等の印刷がなされている他は、第2表紙ページ（表紙裏＝見返し）から第3表紙ページ（裏表紙裏）、第4表紙ページ（裏表紙）に至るまで3ページ分には何も印刷されておられません。1ページ用の紙の大きさは、所蔵機関等が後に切り揃えた可能性を完全に否定することはできませんが、表紙ページで、縦215～216mm、横134～135mmですから、オクターボ、八つ折り版ということになります。なお、表紙の印刷については、表紙専用の小型の印刷機が別にあった可能性をも考慮に入れておく必要があるのかもしれない。

この表紙の状態をよく見てみますと、いくつかの伝承版本には2度折りまして、4分の1の大きさにした十文字の折り跡のある刊本が見られます。表紙を縦長に置きまして、表紙（第1表紙ページ）面の真横が谷折りになるように、表紙の下辺を上辺に付けるようにして1回折ります。そうして、今、表側になっている裏表紙（第4表紙ページ）の下半分の右辺を、のど側の左辺に付けるようにもう1回折ります。このような折り方をいたしますとその結果、出来る折り跡です。これについては私の憶測にすぎませんが、出版当時、『宣言』の実際の刊行母体でありました共産主義者同盟や刊記に記されております刊行母体ロンドン・ドイツ人共産主義労働者教育協会のメンバーであって、配布を受けたり、購入したりしたであろう持ち主が、おそらくこうして4つ折りにし、ポケットに入れて常時持ち歩き、折を見て読んでいたのではないかと想像されるわけです。

2) 二つの折りで構成される本文用紙

『宣言』初版の本文用紙は、総じてどの異本におきましても、かなり薄手の、少し和紙のような感じのするしなやかで、表裏の判別しにくい紙種でありまして、透かしはございません。今では酸のためかなり茶色に変色してきております。とはいえ、他の1870～90年代にかけて刊行されました『宣言』諸版本と比べますと、ほとんど変色しておりません。ですから、大変よい状態を保っている紙質といえます。しかしながら、伝承状況や各所蔵先での保管状態の相違ということもあるのでしょうか、刊本ごとに、多少異なった印象を受けもいたしますし、あるいはそうした諸条件の相違とはまた別に、とりわけ刷ごとに、使用された印刷用紙が多少とも異なる可能性をも考慮に入れておく必要があるのかもしれない。

ページの表裏の関係等から見まして、23ページ本の本文は次の二つの折りから構成されております。

第一折り（第1印刷ボーゲン）は、扉（タイトルページ＝[1]ページ）～16ページまでの、16ページ分です。八つ折り版の印刷全紙1枚が通常の版掛け（8ページ本掛け）で印刷されたものでしょう。

一方、第二折り（第2印刷ボーゲン）は17ページから[24]ページまでの全8ページ分です。

通常の半分のページ数の折りですので、例えば打ち返し等、通常とは異なった版掛けがなされたと思えばなりません。ちなみに、ここから本来17と打つべきである17ページのノンブルを23と打ち損じた誤植も、この特殊な版掛けと関係していたと見るヴォルフガング・マイザーの推定が生

まれてくるわけです⁸。

3) 仮綴じの仕方

扉の左辺には、仮綴じのための白い糸が通っている穴が縦に三つ並んでおります。ですから、本文用紙は、前半の第一折り16ページ分と後半の第二折り8ページ分とを、おそらく前者は16ページまわし折り、後者は例えば8頁長手折り（長方形折り）・クロス折りあるいは8頁巻き折り（平行折り）して、それぞれ折り畳み、出来上がったこの二つの折りを重ねて、三つの穴を穿ち、白糸を通し、結わえ付けて仮綴じされる——このように綴じられました—印刷全紙半が、その厚さ2mmに満たない背の部分および第1ページの左辺数mmとを糊白に用いまして、緑色の表紙にしっかりと貼付され、その後、三方裁ちないしは折り畳んで袋になったところのできる二辺が裁ち落とされて、仮綴じ本として仕上げられているわけです。

したがって、『宣言』23ページ本は、誤植等その印刷の特徴を見る場合には、①緑色の表紙部分、②第一折り部分、および、③第二折り部分という三つの部分の組み合わせとして考慮する必要のあることが分かります⁹。

つまり、各印刷異本を識別する指標となつてまいりますいろいろな印刷の特徴があるのですが、それらの指標はこの三つの部分のそれぞれどこに属するかを見定めたくて、三者それぞれの組み合わせとして考慮しなければならないというわけです。

(2) 23ページ本の組版で印刷された版本である証拠 各異本に共通する印刷上の汚れ

次に、同じ23ページ本に属する異本であることがどのようにして分かるのかについてです。そもそも同じ組版であつて、組版を共通に用いた印刷による刷の違いであるということがどのようにして確認できるのかということですね。

そのような確認は、通常、刊本に残る印刷上の汚れでなされます。

印刷上の汚れと申しますのは、例えば、23ページ本の第16ページ第32行目の行頭二語が *einer andern*. となっている箇所で見てください。 *einer* と *andern* とを分かつために、両語間に込め物（この場合は「スペース」と称される込め物）が配されているのです。印刷面に空白部をつくるためだけです。込め物は、印刷される活字よりも高さを幾分低く、肩の高さでつくってありますので、本来は印刷インクが付かないはずなのです¹⁰。それにもかかわらず、スペースの込め物の組版への納まり具合が悪いなどいたしますと、印刷の際に浮き上がり、本来インクが付くべきではない

⁸ Wolfgang Meiser: Das „Manifest der Kommunistischen Partei“ vom Februar 1848. Neue Forschungsergebnisse zur Druckgeschichte und Überlieferung. In: *Marx-Engels-Jahrbuch*, 13, Berlin 1991, S. 125, Anm. 15 (拙訳「1848年2月の『共産党宣言』——印刷の経緯と伝承についての新たな研究成果」『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』第37号, 八朔社, 2002年2月, 6ページ, 脚注(15))。

⁹ この点は、23ページ本の各印刷異本を把握する際に、非常に重要な点なのですが、従来必ずしも明瞭に意識されてこなかっただけに強調しておく必要がございます。

¹⁰ 「肩」など、活字の各部分の名称やそのつくり・造作については、後掲「(補足)活版印刷とは?」の「1. 活字とは?」の最初の図版をご覧ください。

込め物の上面にインクが付着し、込め物の肩面自体も印刷されてしまうことがあるのです。すると、その縦長の棒状の汚れが、全部あるいは上部ないしは下部もしくは上下部といった一部分が、残されることとなります。この場合ですと、einer|andern.あるいはeiner'andern.ないしはeiner, andern.もしくはeiner'andern.といった印刷の結果になるわけです。このような印刷上の汚れが、同一の組版であることを証拠立てる典型的な印刷特性として認められているのです。

伝承されている26の刊本いずれにもこうした汚れがいくつか見出されまして、それらのうちすべての刊本に共通して認められる7つの箇所がトーマス・クチンスキーによって整理されております。23ページ本のページ数・行数・前後の単語を示しますと次のようです。

「ページ	行	前後の語
16	32	anderen
16	39	freie
19	25	gegen
20	5	hier
21	24	ersten
21	49	(sich)
22	7	fehlschlagende」 ¹¹ 。

このような痕跡の存在を確認することによりまして、26冊いずれもが同一の組版から印刷された初版の種々の刷の一つであることが確証されるわけです。

この活字・活字セット (Schriften) をめぐるとのお話は、デスクトップパブリッシング (DTP) が一般的になっております現在、特にお若い方にご理解いただくのは至難の業のように感じます。そのため、本稿末に、「活版印刷 (typography, [movable] type printing, letterpress) とは？」と題する簡単な補足を付け加えてみましたので、ご覧になってみてください。

以上は、同じ組版に属するいわば各印刷異本の共通性についてでした。

2. 23ページ本の各異本の特徴 各異本の相違点

次に、どの印刷異本に属するのかの基準についてのお話となります。それら各異本は互いにどのように相違しているのか、です。この相違性も印刷の特徴から見ていくこととなります。

¹¹ Kuczynski, Thomas : Editionsbericht. In : Das Kommunistische Manifest, *Schriften aus dem Karl-Marx-Haus Trier*, Nr.49, Trier 1995, S. 80.



(画像4) 表紙1



(画像5) 表紙2



(画像6) 表紙3

(1) 表紙

先ほどの23ページ本の組成に応じて見てみましょう。

まず、表紙についてです。

(画像4) 表紙1および(画像5) 表紙2の縦長の長方形を作っている枠線と(画像6) 表紙3のそれとでは、四方の隅(角)にある飾りの形が違うことは明瞭でしょう。

(画像4) 表紙1と(画像5) 表紙2の枠線を形作っているヤクモノの垂直(縦)の辺の個数を、少し面倒ですが、それぞれ数えてみてください。表紙1は29個、表紙2は30個と、その数が異なっているのがお分かりになることと思います。

また、(画像6) 表紙3と(画像7) 表紙4の横長の上方(表題の Manifest を1行目としますと、4行目にあたる場所です)にございます2本線(双注ケイ)および下方(6行目)にございます1本線(表ケイ)と、その位置が微妙にズレていることも見て取れるのではないのでしょうか。

(2) 扉(タイトルページ)

次に扉(タイトルページ)です。扉は、先の23ページ本の組成からいたしますと、第一折りの第[1] ページ目に当たります。

1) (画像8) 扉1と(画像9) 扉2の違い

(画像8) 扉1では4行目にあたる箇所に双注ケイ(二重線)が見られます。また、6行目には表ケイ(一本線)にございます。他方、(画像9) 扉2では4行目に双注ケイが見出されませんが、6行目にも表ケイにございません。2種類の罫線が二つともないわけです¹²。

¹² (画像9) 扉2の3行目行末 Partei の後にはピリオドが欠けていますが、この図版の元のリプリントにはピリオドにございます。拙初出稿の図版作成過程においてなんらかの理由で脱落したもので、チェック漏れで拙著にもそのまま誤りが踏襲されてしまいました。お詫び申し上げます(拙初出稿では81ページ図版5、拙著では51頁左上の(図版5)です)。本稿のこの注記で訂正するために、これまでのピリオドが欠けた作成ミスの図版をあえて掲げてありますので、ご注意ください。なお、その他の拙著の昨年6月30日現在での「正



(画像7) 表紙4



(画像8) 扉1



(画像9) 扉2

2) 原本の伝承のない(画像10)扉3の違い



(画像10) 扉3

また、原刊本は伝承されておらず、複製だけが残されているものなのですが、アンドレアスの1D、クチンスキーの刷Xの扉が(画像10)扉3です。ご覧のように、4行目の双注ケイが見られず、6行目の表ケイだけがございませぬ。

誤表」は拙論「黒滝正昭会員の書評論文へのリプライ」鹿兒島大学法文学部紀要『経済学論集』第90号、2018年3月、84ページに記載してございませぬ (URLは、<http://hdl.handle.net/10232/00030322>)。本拙論は、黒滝正昭氏の「書評論文：橋本直樹『共産党宣言』普及史序説』八朔社2016年6月、405p.」(URLは、<http://hdl.handle.net/10232/00030323>)への「リプライ」です。

(3) 目立った4つの誤植

1) 悪活字の herauf beschwor か きれいな活字だが誤植の heraus beschwor か

6ページ最下行(53行目)に herauf beschwor という文字列がございます。この箇所につきまして、herauf beschwor と正しい綴りなのですが、悪活字になっている刷(画像11)の異本と、heraus

schwaft der Bourgeois-Klasse.

Unter unsren Augen geht eine ähnliche Bewegung vor. Die bürgerlichen Produktions- und Verkehrs-Verhältnisse, die bürgerlichen Eigenthums-Verhältnisse, die moderne bürgerliche Gesellschaft, die so gewaltige Produktions- und Verkehrsmittel hervorgezaubert hat, gleicht dem Hexenmeister, der die unterirdischen Gewalten nicht mehr zu beherrschen vermag, die er herauf beschwor.

(画像11) 23ページ本6ページ

最下行(53行目) 行末 herauf beschwor と正しい綴りだが、悪活字の刷

schwaft der Bourgeois-Klasse.

Unter unsren Augen geht eine ähnliche Bewegung vor. Die bürgerlichen Produktions- und Verkehrs-Verhältnisse, die bürgerlichen Eigenthums-Verhältnisse, die moderne bürgerliche Gesellschaft, die so gewaltige Produktions- und Verkehrsmittel hervorgezaubert hat, gleicht dem Hexenmeister, der die unterirdischen Gewalten nicht mehr zu beherrschen vermag, die er heraus beschwor.

(画像12) 23ページ本6ページ

最下行(53行目) 行末 きれいな活字だが、heraus beschwor と誤植された刷

beschwor と誤植してはおりますが、きれいな活字で印刷されている刷(画像12)の異本とがあるのです。前者が異本1~3に見出されます。異本4~7が後者です。

2) 17ページのノンブルを23と誤植

16ページ目と17ページ目とは見開きになります。そして、16ページの次に17ページが来るのは当然であります(次ページ左(画像13))。ところが、次ページ右(画像14)のように、17ページのノンブル(ページ番号)に17と植字しなければならないにもかかわらず、そこに23の数字が植字されてしまい、結局、ノンブルだけが23と誤植されている17ページ目をもつ刷(異本)がございます(ページの内容は17ページのものです)。これこそが初刷で、異本1と考えられております。

3) 18ページ33行目改行行頭に ■ (込め物 [全角クワタ] 肩面) の汚れ

画像は挙げておりませんが、18ページ33行目の行頭では段落が改められております。そういう箇所ですので、改行されて数文字分の印刷の空きがあるわけです。ところがそこに■の印刷の汚れが残っている刷(異本)がございます。異本2とされております。

4) 23ページ44行目の誤植 Lander

44行目の『宣言』最後の一文、著名なスローガンですね。その中で、Länder は、23ページ本の場合、a ウムラウトにされておらず、Lander と誤植されております。この点が、1D・刷XではLänder と誤植の訂正がなされております。

literarische Kampf blieb ihr übrig. Aber auch auf dem Gebiete der Literatur waren die alten Redensarten der Restaurationszeit unmöglich geworden. Um Sympathie zu erregen, mußte die Aristokratie scheinbar ihre Interessen aus den Augen verlieren und nur noch im Interesse der exploitirten Arbeiterklasse ihren Anklagen gegen die Bourgeoisie formliren. Sie bereitete sich so die Genugthuung vor, Schmähtlieder auf ihren neuen Herrscher singen und mehr oder minder unheilsschwangere Prophezeiungen ihm ins Ohr raunen zu dürfen.

Auf diese Art entstand der feudalistische Socialismus, halb Klage lied, halb Pasquill, halb Rückfall der Vergangenheit, halb Dräuen der Zukunft, mitunter die Bourgeoisie ins Herz treffend durch bitteres, geistreich zersetzendes Urtheil, stets komisch wirkend durch gängliche Unfähigkeit den Gang der modernen Geschichte zu begreifen.

Den proletarischen Bettlerack schwenkten sie als Fahne in der Hand, um das Volk hinter sich her zu versammeln. So oft es ihnen aber folgte, erblickte es auf ihrem Hintern die alten feudalen Wappen und verließ sich mit lautem und unüberhörbarem Gelächter.

literarische Kampf blieb ihr übrig. Aber auch auf dem Gebiete der Literatur waren die alten Redensarten der Restaurationszeit unmöglich geworden. Um Sympathie zu erregen, mußte die Aristokratie scheinbar ihre Interessen aus den Augen verlieren und nur noch im Interesse der exploitirten Arbeiterklasse ihren Anklagen gegen die Bourgeoisie formliren. Sie bereitete sich so die Genugthuung vor, Schmähtlieder auf ihren neuen Herrscher singen und mehr oder minder unheilsschwangere Prophezeiungen ihm ins Ohr raunen zu dürfen.

Auf diese Art entstand der feudalistische Socialismus, halb Klage lied, halb Pasquill, halb Rückfall der Vergangenheit, halb Dräuen der Zukunft, mitunter die Bourgeoisie ins Herz treffend durch bitteres, geistreich zersetzendes Urtheil, stets komisch wirkend durch gängliche Unfähigkeit den Gang der modernen Geschichte zu begreifen.

Den proletarischen Bettlerack schwenkten sie als Fahne in der Hand, um das Volk hinter sich her zu versammeln. So oft es ihnen aber folgte, erblickte es auf ihrem Hintern die alten feudalen Wappen und verließ sich mit lautem und unüberhörbarem Gelächter.

Es kann dies natürlich zunächst nur gesehen veranlaßt despotischer Eingriffe in das Eigentumsrecht und in die bürgerlichen Produktions-Verhältnisse, durch Maßregeln also, die ökonomisch unzureichend und unhaltbar erscheinen, die aber im Lauf der Bewegung über sich selbst hinaus treiben und als Mittel zur Umwälzung der ganzen Produktionsweise unvermeidlich sind.

Diese Maßregeln werden natürlich je nach den verschiedenen Ländern verschieden sein.

Für die fortgeschrittensten Länder werden jedoch die folgenden ziemlich allgemein in Anwendung kommen können:

- 1) Expropriation des Grundeigentums und Verwendung der Grundrente zu Staatsausgaben.
- 2) Starke Progressiv-Steuer.
- 3) Abschaffung des Erbes.
- 4) Konfiskation des Eigentums aller Emigranten und Rebellen.
- 5) Centralisation des Kredits in den Händen des Staats durch eine Nationalbank mit Staatskapital und ausschließlichem Monopol.

(画像13)

Es kann dies natürlich zunächst nur gesehen veranlaßt despotischer Eingriffe in das Eigentumsrecht und in die bürgerlichen Produktions-Verhältnisse, durch Maßregeln also, die ökonomisch unzureichend und unhaltbar erscheinen, die aber im Lauf der Bewegung über sich selbst hinaus treiben und als Mittel zur Umwälzung der ganzen Produktionsweise unvermeidlich sind.

Diese Maßregeln werden natürlich je nach den verschiedenen Ländern verschieden sein.

Für die fortgeschrittensten Länder werden jedoch die folgenden ziemlich allgemein in Anwendung kommen können:

- 1) Expropriation des Grundeigentums und Verwendung der Grundrente zu Staatsausgaben.
- 2) Starke Progressiv-Steuer.
- 3) Abschaffung des Erbes.
- 4) Konfiskation des Eigentums aller Emigranten und Rebellen.
- 5) Centralisation des Kredits in den Händen des Staats durch eine Nationalbank mit Staatskapital und ausschließlichem Monopol.

(画像14)

3. 23ページ本の異本の種類と印刷順序

これらの各印刷異本の特徴を、表紙、第1折り、第2折りのどこに属するのか整理いたしまして、異本ごとに分類し、印刷の順序の推定も加味いたしましてまとめますと、先に掲げました「23ページ本印刷異本対照表（その2）」のようになるわけです。

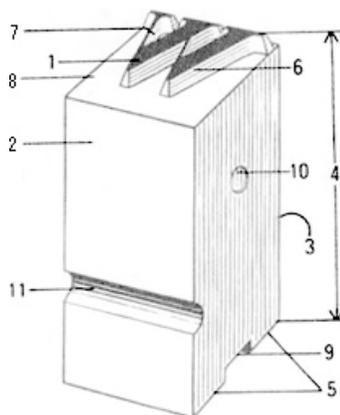
以上、『共産党宣言』初版のもっぱら組成と各異本を識別する基準につきまして、そしてその結果として判明してまいります各異本の印刷順について若干、なるべく分かりやすい形で簡単に再論いたしました。上掲拙著刊行後特に、『宣言』初版の各異本を識別する基準がなかなか理解し辛いとの声が寄せられておりますためです。おそらくは、活版印刷が行われなくなった今日、それを理解するためには多少とも一定の知識が必要なためではないかと思っております。そうした点につきましては、以下の「(補足) 活版印刷とは？」をも併せてご覧いただけますと幸甚です。

(補足) 活版印刷とは？

活版印刷について、特に欧文活字および植字・印刷作業を、図版と写真とでごく簡単に補足します。

1. 活字とは？

まず、活字とは何かです。下図のように1文字ずつ印鑑のような形の活字が鉛でつくられます。右図が印面を上から見たものです。(なお、本項の図版は岩波新書の葉「《本の知識》シリーズ = N0.4 欧文活字の名称」から、次項2の図版は同じく岩波新書の葉「《本の知識》シリーズ = N0.11 欧文活字のライン構成」からです。図版の転載をご許可くださった岩波書店に、記して謝意を表します)。

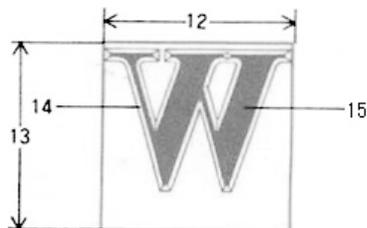


- 1) 字づら (type face)
- 2) 腹 (front)
- 3) 背 (back)
- 4) 高さ (height)
- 5) 足 (feet)
- 6) 斜面 (bevel)
- 7) 谷 (counter)
- 8) 肩 (shoulder)

9) 湾 (groove)

10) ピンマーク (pin mark)

11) ネッキ (nick)



12) 幅 (set)

13) 天地 (body)

14) 細線 (hair line)

15) 幹線 (stem)

2. 欧文活字のライン構成

活字15個 (スペース含む) を並べて語や文章をつくり (植字), 印字した結果が下図です。

- 1) ボディ・サイズ (body size)
- 2) エックス・ハイト (X height)
- 3) アッセンダー・ライン (ascender line)
- 4) キャップ・ライン (cap line)
- 5) ミーン・ライン (mean line)
- 6) 並び線 (line, base line)
- 7) デッセンダー・ライン (descender line)
- 8) セット (set)



3. 活版印刷

活版印刷の大凡を、以下、ごく簡単に写真付きでご説明します。

1) 活字セット全体

抽斗の中には種々の活字が入っています。必要に応じて上に出して使います。



2) 活字セット常用部



上に載っているのは、常時使用するポイント数・字体の活字やヤクモノ（字間のスペースやダッシュ等）です。下の抽斗には時折使うのが入っているわけです。

3) 活字箱



活字セット常用部と下部の抽斗の間の辺りです。

常用部には同じ字・同じポイントごとの活字が別々に仕切れられ分けされています。下にある横長のは、行組みの道具です。その右半分には、すでに HASHIMOTO の各活字——活字ですから鏡文字になって左右反転しています——が1行分組まれています。

4) 活字組み・組版・版掛

1文字ごとに活字を植字していき1行ができ、各行ができると1ページに組みます。



5) 組んで版盤に載せる（これはハガキの大きさの場合）通常は、16ページ（1印刷ボーゲン [1印刷全紙]）でワンセット



6) 紙型と鉛盤



活版印刷では、通常、中央から右に見られますように、下にある活字を組んだ版盤（凸型）から、まず、少しめくれあがって見える紙型（凹型）をつくります。次にこの紙型に溶けた鉛を流し込み、左側に立てられている半筒型の薄い1枚の鉛盤（凸型）をつくります。ここでは小さな印刷機にセットしやすいように半筒型になっています。

7) 鉛盤を印刷機にセットしたところ



鉛版をこのように印刷機にセットして印刷します。この鉛版で印刷された刷りが初版初刷となります。

何度も印刷しますと、次第に鉛盤も磨滅してきて、印刷が不鮮明になります。そこで、保存してある紙型に、溶けた鉛を流し込んで、また新たに鉛盤をつくります。そうして印刷された刷りが、第2刷（再刷）となります。増刷ですね。以下、鉛盤の磨滅の都度、同様の過程を踏み、何刷かまで進んでいきます。

とはいえ、紙型から鉛盤をつくるたびに、紙型は鉛を溶かした熱によってわずかながら縮んでいきます。そうして出来る鉛盤で印刷される字の切れも少しずつ悪くなってきます。その結果、もはや読むに堪える印刷のできる鉛版をつくれないうちに、紙型が磨滅してきます。

そうなりますと、新たに活字を組む作業からやり直さなければなりません。版を改める（改版する）わけです。その結果、組み上がる組版が第2版（再版）の組版＝版盤（凸型）となるわけです。そこから初版と同じ手順で新たに紙型（凹型）をつくり、この第2版（再版）の紙型から第2版（再版）の各刷の鉛盤（凸型）がつけられます。こうして第2版（再版）の紙型から最初につくられた鉛盤で印刷される刷りが第2版（再版）の初刷となります。売れ行き等必要に応じて、以下、同様に増刷されますと、初版の時と同様に、第2版（再版）の紙型が磨滅してきます。そうなればまた新たに植字（改版）されて、第3版以下の版と刷りが印刷されることとなります。

8) 印刷



この写真のように、現在も1ページ分だけの場合や、古く『宣言』の時代には、紙型や鉛盤をつくらずに、ページ組みした版盤の上に直接インクを載せ、紙を置き、ローラーなどで圧力をかけて印刷しました。このような印刷の仕方

を原版刷りないしは直刷りと言います。

したがって、原版刷りの場合、増刷するには活字を組んだ版盤（原版）をそのまま保存しておく必要が生じるわけです。保存期間中、原版で使用されている活字は他の印刷には当然使えません。借りた活字セットであるなら、組版に使用中の活字の分は返せないことになります。増刷をしなくなった時点で、版組が解かれ（解版）、活字が元の活字箱に戻され、活字セット全体が返却されます。

原版刷りでは、何部も印刷すると活字自体が痛んでくるため、5～6千部が限度であったとも言われています。

とはいえ、ドイツ文字の活字が稀少かつ貴重であったロンドンでの印刷の場合には、前記のように、一度組版し版盤で使用した活字でも、活字セットの活字箱の同じ活字の所に戻して、何度も利用した可能性が高いのです。その後の、一般的な活字印刷の場合には、一度使用した活字を活字箱に戻すようなことはなく、まとめて鋳溶かしてしまい、それらから新たに活字を鋳造するようになります。

9) 絵の部分の印刷（用紙が小さい印刷で）



絵（イラスト）が入る場合は、先にこのように印刷する場合があります。ハガキのように小さな用紙の印刷の場合がそうです。通常、絵はエッチングのようにして文字の版盤に組み込ま

れて印刷されたようです。

10) 絵を印刷した後、字の印刷



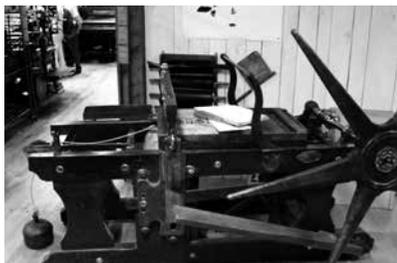
ここでは、9) のようにして絵の部分印刷した用紙を差し入れて、8) のようにして字の部分の印刷をしています。

11) 刷り上がったハガキ



写真では小さくてよく分かりませんが、拡大して見ますと Basler Papiermühle の全景の絵の下に September 2003 / HASHIMOTO と 2 行にわたって印刷されているのが分かります。こうして来館者に記念につくってくれる氏名入りハガキの印刷が完成しました。

12) 裁断機



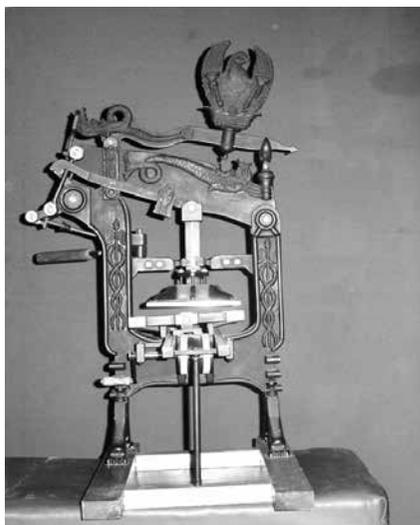
ハガキは1枚刷りなので使わなかったわけですが、製本したり、仮綴じた本や小冊子の場合には、綴じてあるノドの辺以外の3辺を、この裁断機で切り落としてほぼ出来上がりとなるわけです。

(全ての写真の撮影：橋本直樹*)

*なお、本項の1)～12)の写真は、2003～2006年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))『『共産党宣言』初版の出版史・影響史についての研究』(代表者：橋本直樹)の成果の一部です[報告書では割愛した部分です]。2003年8月29日～9月14日(17日間)ジュネーヴおよびバーゼル(スイス共和国)で行った資料調査のうち、9月7日(日曜日)午後には訪問した「バーゼル製紙博物館(Basler Papiermühle)」での来館者向けの実演を撮影した部分からのものです。

13) 『新ライン新聞』発行当時(1848～49年)の印刷機のレプリカ

ロシア国立社会・政治史文書館(РГАСПИ)蔵



(ヴァレリイ・フォミチョフ [拙訳]「マルクス主義の普及史について——ロシア国立社会・政治史文書館収蔵品中の『共産党宣言』——」『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』第43号, 八潮社, 2004年12月, 18ページから)